

民青同盟を一緒にやってみませんか。2024年冬加盟呼びかけ文

■私たち民青同盟は、15歳から30歳が所属する全国約7000人の青年団体です。1923年に創立されました(今年で101年目!)。地域・職場・学園ごとに班をつくり、身近なことから世界のことまで、一人ひとりの思いから出発し、学んだり交流したり行動したりしています。アドバイザーは、日本共産党(1922年創立、国会議員19人、地方議員約2300人、党員約25万人、後援会員・サポーター約330万人)です。

■民青同盟は、青年の苦しさに寄り添い、なんとかするために力を尽くしてきました。コロナ禍での学生への食料支援活動、ネットカフェ利用者調査、そこで集めた声を行政や議員に届ける要請行動、被災地ボランティア、無料塾など、私たちにできることはたくさんあります。地域・職場・学園など、草の根で青年の苦しさに寄り添い、全国で心ひとつに、長年にわたって青年のために行動してきたことは、私たちの誇りです。

■民青同盟では、青年の苦しさのおおもとについて学ぶことを大切にしてきました。高すぎる学費や低賃金、不安定雇用や長時間過密労働、ジェンダー差別や環境問題など、青年を苦しめる問題はたくさんあります。競争社会と自己責任論のなかで、青年は「努力が足りないから」と思いがちです。しかし、様々な問題の根本には、「財界中心」「アメリカいいなり」を特質とする自民党政治があります。「財界中心」「アメリカいいなり」が突き詰められてきた結果、日本は、深刻な問題を抱える国になってしまったのです。

■民青同盟では、政治を変えられる確かな展望を掴むことができます。いま、一見、明るい未来の見える社会かもしれません。しかし、私たちは、いまの政治を、「財界中心」「アメリカいいなり」から抜け出させることで、日本という国がこの激動期を乗り越えて、もっといい国になるという確信をもっています。トリクルダウンではなくボトムアップの経済政策、対米従属ではなく日本の強みを生かした平和外交など、日本にはまだまだ大きな可能性があります。

■自民党に投票しているのは有権者のうち14%(2024年衆院選比例票)に過ぎません。2024年10月の総選挙では、自民党が大敗し、与党は国会の過半数議席に届かない状況が生まれました。これは、紆余曲折を経ながらも、この国の政治が「財界中心」「アメリカいいなり」から抜け出していく新しいプロセスの始まりといえます。この変化を後押しするためにも、民青同盟は、日々の班会や企画、また、同盟内外の広範な青年と力をあわせながらの「ネットワーク運動」(※)をはじめ、様々な分野で、世論と運動を強める取り組みを強めています。

(※)「敵基地攻撃能力保有・大軍拡に反対する青年の草の根ネットワーク運動」

■民青同盟が、行動したり学んだりするうえで確かな力になっているのは、マルクスらが創始した科学的社会主義と、その理論で日本社会を分析した日本共産党綱領です。自民党政治や資本主義社会について、構造からつかむことのできるこれらの理論・文献によって、様々な問題や事件に対して、表面的ではない見方ができるようになります。科学的社会主義の最新の入門書『科学的社会主義 Q&A』を発行しているのも民青同盟です。ソ連や中国とは違う、最新の、「人間の自由」を中心とした社会主義論についても民青同盟で学べます。

■活動の基本は週に一回の班会です。同盟費は550円(減免制度あり)、新聞も発行しています。予備知識はいりません。ゼロから社会や政治について学べます。学ぶことが一致点です。「社会や政治について学びたい」「社会や政治をよくしたい」「困っている人のためになにかしたい」「戦争は絶対にイヤだ」「真剣に社会のことを話せる仲間が欲しい」——激動の時代を生きるあなたへ、民青同盟への加盟を心から呼びかけます。